

総会実行委員の方々のお骨折により、五十三年度の定期総会も、若手の記念講演講師・ソ連通の宮内邦子氏来校とあって、二百名近い出席者のもとで、実行委員馬場田幸雄氏（高4）の司会にてスムーズに始まり総会次第に従つて予定通りに進行された。議事は、議長団に奥村頼人氏（中33）と藤井篤氏（中41）が選任され、予定の議事が滞りなく承認可決された。高校を出たばかりの若い伊奈川秀和氏（高29）のタクトで校

一、開会の辭

懇親会の後、講師の同期会
が計画されており、宮内氏
もその会に出席された。

歌齐唱がなされ、大先輩大沢和夫氏（中22）の音頭で万才三唱無事終了した。若い講師の講演とあって、例年なく若い同窓生の姿がちらほらと見受けられた。その後新館三階で懇親会が開かれ大変な盛会で誠になごやかな雰囲気であった。懇親会の後、講師の同期会が計画されており、宮内氏もその会に出席された。

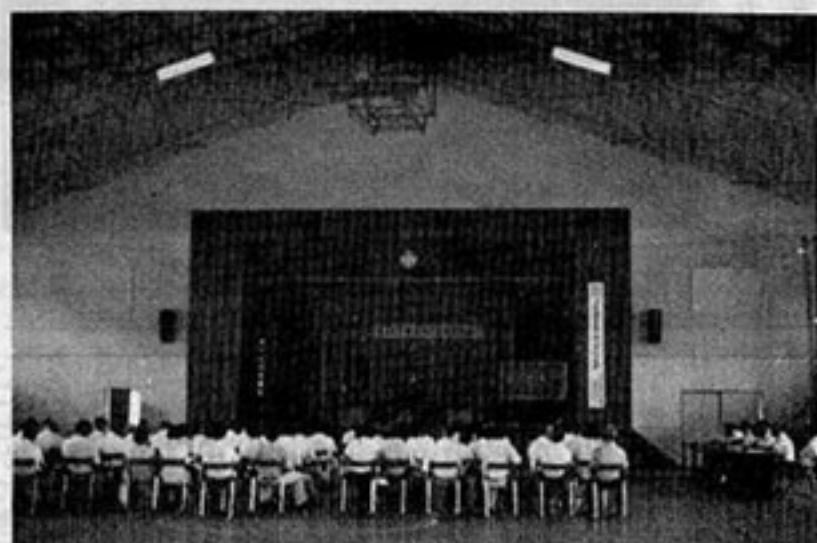
画並びに予算案審議
二、その他
一、校歌齊唱
一、万才三唱
一、記念講演
「ソ連の軍事力とアジア
への進出」

一、実行委員長挨拶
二、会長挨拶
三、校長挨拶
四、議事
五、昭和五十二年度会務報告
六、昭和五十二年度決算報告並びに会計監査報告
七、昭和五十三年度事業計畫並びに予算案審議
八、その他
九、校歌齊唱

昭和53年度

定期総会盛大に開かる

宮内邦子氏（高4回）



昭和 53 年度 定期総会風景

副 會 長	松 下 逸 雄 (中 37)	北 原 明 治 (中 23)	高 安 健 之 (中 43)	橫 田 盛 広 (高 3)	長 坂 好 忠 (中 41)	佐 藤 仁 宏 (高 16 14)	佐 藤 至 利 (高 13 12)
監 事 會 委 員 長 伊 坪 計 伊 坪 三 郎 (中 45)	外 松 市 瀬 泰 久 (高 2)	淳 (中 39)					
總 會 實 行 委 員 會 委 員 長 小 島 哲 (高 4)	馬 場 田 幸 雄 (高 4)						
熊 谷 原 田 正 輝 (高 4)	原 田 充 朗 (高 7)						
野 村 北 村 俊 一 (高 9)	矢 澤 伊 藤 勝 治 (高 10)						
篠 田 伊 藤 勝 治 (高 11)							
佐 藤 仁 宏 (高 12)							

飯田高校も二年後に独立八十年、創立九十八年を迎えます。月日の流れの早さを痛感します。

県が施行する施設以外は許可しません。そこで独立八十年記念を、創立百年の意義ある年を、如何にすべき

同窓会運営の あり方について

= 会員數 =						
	總人數	故人	重複	外國	不明者	實在者數
中學計	4,947	1,750	28	16	404	2,749
高校計	10,901	114	20	67	2,035	8,665
合計	15,848	1,864	48	83	2,439	12,414

= 現生徒數 =			
	男	女	
1年	263	109	372
2年	265	109	374
3年	285	87	372
合計	813	305	1,118



県に寄付採納して建設しました。

円位の碑を熙と交渉して建立するか、このほかは出来ないわけでありますが、会員の皆様に良い方法があつたら御返事賜ります様お願ひ申し上げます。

高校第四回の卒業生として、本日この同窓会総会でお話させていただけることを大変感慨深く思います。テーマが固苦しくなり、たいくつするかもしれませんのが、どうぞお気軽にお聴き下さい。

× ×

私は大学を出ましてまもなく防衛庁に入りました。防衛研修所に所属してからもすでに十余年になります。私はそこでソ連の軍事について研究を重ねるうち、必然的に世界の軍事状勢というものを考えないわけにはいかなくなりました。その軍事力がどのように世界の状勢に影響を与える、世界の性格をどのように変えてきているのか、ということを考えてしまいました。そしてその状況について研究すればする程、戦後の日本は世界の軍事に関する問題について、あまりに疎く、まさに「軍事鎖国」の状態だと考えるようになりました。今、私達日本人は、自分達だけで「武器は捨てた」「我々は平和憲法のもとに、永久に戦争はない」と宣言して、そうすればすむものと思つてゐるようです。しかし日本を取りまく世界の状勢は決してそうではない。むしろ軍事を中心にして進行してきたのだ、と考えないわけにはいかないと思われます。日本人が世界

高校第四回の卒業生として、本日この同窓会総会でお話させていただけることを大変感慨深く思います。テーマが固苦しくなり、たいくつするかもしれません、が、どうぞお気軽にお聴き下さい。

のそういういた状態に目も耳もふさいで太平の夢を貪っているうちに必ず黒船がやつてくる——それが一昨年のミグ戦闘機だつた、と考えられるのです。

迄ソ連の戦争に対する考え方方がどう変化してきたか、また世界の軍事状勢がどのように変化してきたか、上記のことについて考えてみます。それを見るには、一九四五年以後をおよそ二つに区分して

アジアへの進出

講師 防衛庁防衛研修所 宮内邦子氏(高4)



宮 内 邦 子 氏

（）年半の半ばはソ連の核保有権を確立するという点で、ソ連に対して圧倒的優位に立っていました。ソ連は、この時代には、アメリカに対し、またアメリカの枠組の中に対して戦争を仕掛けることができない状勢でした。ところが一九五七年にソ連は、アメリカに先立ってICBMを開発したのです。そこでアメリカもソ連によつてニューヨークをたたかれる危険を持つことになりました。「大量報復戦略」といって、ICBMを相手国に撃ち込む。その結果人類が滅んでしまう、という状況です。それぞれが相手の心臓を、出兵することなく撃

一九五〇年代と六〇年代
七〇年代と別け、更に米ソ
という二大軍事大国の状態
を見るのが適切な把握につ
ながると思ひます。一九六〇

こうなると、たとえソ連が西側ヨーロッパに侵入しても、アメリカはモスクワに核を撃ち込んで、ヨーロッパを守るために戦うことはないだろう、とヨーロッパ人は考へるようになりました。フランス、やがて他の国が核を持つようになった理由がここにあります。

部の大会と決まつてしまつてゐる。京都・大阪・神戸と持ち廻りの同窓会も、本年は京都の当番というので、昨年のうちからお願ひしてあつた長野市川中島御出身の羽生田寂純老師の住職をしていられる嵯峨小倉山の二尊院をお借りして開催することにした。

されたという方が二人、遠くは紀州白浜温泉から駆けつけて下さつたり、それに今回の特徴は、木下修二郎国手の尽力その他により、京大在学中の若々しい会員やらその他の若い方々が多く出席して下さつたのが有難い極みでした。兎に角老若の交流というか、若返りが大事だと思います。

では年代を変えるの小規模は中止してはいふ。応歓を使ら、大型大を持た開拓にこゝにカニ対応

ノメリカは、このままの傾向を止めることはこまる。代初め、二つ目の戦略として、小規模の侵攻を規模に、大規模に、中規模に、は大規模な「小規模の侵攻戦略」として使わない。次に「大規模の核戦略」を抑止する戦略を心してソ連についたアーレンショ

。これ
は戦略
ちソ連
しては
対して
に対し
る、と
状況か
「核」
争の拡
い」を
って展
をエス
訳です。
戦略に
を変へ

大原の三寺といつて、引角合が多い。関西の一部から会合が開かれることが多い。大原の三寺といつて、関西の一部から会合が開かれることが多い。大原の三寺といつて、関西の一部から会合が開かれることが多い。

。宇治の
十院・紫
長・学校
同窓会に
たわけで
々が御光
くもあり、
今回も長
々飯田か
て頂き、
へ到着し
駆けつけ
けで恐縮
それに東
正一氏が
して頂き
なりまし
方も集り
名となり
謝の極み

は毎年本
長・事務
來頂ける
、鼻高々
坂副会長
ら車を走
しかも幹
ない二時
て頂いた
そのもの
恒例によ
申分のな
京支部の
した。

トとブ
かないと
ですが
娘」の
謡と楽
初め
二尊及
つたの
ことに
肝甚要
老師に
電話を
万事休
バでお
然、冷
はり餘
ん。会
戻野を
たこと

PRが加わり和気藹々しい会が続きました。二尊に礼拝し老師の及び二尊院のお話を聴いて、さて直会といふとなつたのであるが、この料理が来ていない伺いを立てたら、「かかるのを忘れた。」と答へす。親子丢とザルソ茶を濁したが全く呈汗も出なかつた。や事は若返らねばならぬ員の皆さんも各々嫌と思ひ思いに散策されであろう。

関西支部連合総会の記

池田茂登(中25回)

支部だより

トとブ
かないと
ですが
娘」の
謡と楽
初め
二尊及
つたの
ことに
肝甚要
老師に
電話を
万事休
バでお
然、冷
はり餘
ん。会
戻野を
たこと

PRが加わり和気藹々しい会が続きました。二尊に礼拝し老師の及び二尊院のお話を聴いて、さて直会（名前）といふとなつたのであるが、スの料理が来ていないと伺いを立てたら、「かかるのを忘れた」。親子丼とザルソ茶を濁したが全く呆滞汗も出なかつた。やれ事は若返らねばならぬ員の皆さんも各自懇意に思い思いに散策されであろう。

←えてきました。

× ×
 一九六〇年代後半は、この方式によって「戦争の限定」の時代に入ったということになります。今迄は核の威力が抑止力となつて働いた。それが、それぞれの段階における「しきい」の下では、自由にいつでも戦争を行えるようになつたのです。一九六一年の「キューバ事件」は抑止力によつて戦争に至らなかつた。一九六五年のベトナムではこの「段階的抑止戦略」のもとで、アメリカと、直接ソ連が戦つた、ということです。そしてそれ以後、ソ連がアンゴラやザイールまた中東に対して大変積極的に出るのもこういう考え方によるものである、といふことができます。

× ×
 一九六九年から七三年まで、ソルト交渉が始まり、米ソは「デタント時代」に入ります。一九七二年、ニクソン訪米によって「米ソ不戦条約」が結ばれデタントが出発します。この時アメリカの認識は「世界の現状

をそのまま固定したものとして認め合い、それを脅かさない」というものがソ連はアメリカのデタント觀とは違つたものでした。即ち「東側、西側」といった、それぞれ固定したテリトリーは認めるけれども、それに入らない第三世界に対するは己に有利となるよう積極的に入ができる」といふことでした。この考え方のもとで「限定された規模の戦略」によつてソ連はアフリカ・中東・アジアの、トリートリーに入るかが固定していない第三世界に対する、きわめて積極的な展開を始めた訳です。そして、特徴的なことは、軍事力というものを二つの面でとらえているということです。一つは「強大な軍事力を背景として政治外交をバクアップすること」であり、今一つは「軍事力は抑止と対処という二つの意味を持つ以上、対処するためソ連のアフリカへの進出」について時間のあるだけ話したいと思います。ソ連のアジアへの進出基本はあります。

今日、ソ連軍のインド洋への大がかりな進出等がよ
 グ話題になりますが、ソ連は一九六九年迄は、自らアジアへの進出の意図は持つていませんでしたし、そういう姿勢も見せませんでした。ソ連は、先に述べました「第三世界の変革」——アフリカ・アジアはまだ東西に固定されていない、という考え方による軍事戦略上の考慮と、この中ソ対立によつて、——今迄中国を介してアジア政策を打ち出していたけれどもならない、という事態とによつて、アジアへの積極的進出の意志を固め、「アジア集団安保」を唱えるようになつたのです。アジアはまだ米ソのテリトリリーが固定していない、という考え方になつたのです。アジアは本をも含んでいるという訳ではありません。ソ連は日本を地理的にはアジアにあつて、本を地理的に西側ヨーロッパの国と同様、アメリカのテリトリリーに入る国と見ていています。そして、デタントの相手国であり、自國の役にたつ科学力や経済力をうまく利用する「協力的共存」の対象とみなしています。唯、中ソ対立は確

ソ連の軍事力と

昭和53年度 同窓会定期総会記念講演

考古

國を取り戻したい、というのが本心だと見るべきです。

窓会を持った。暫くやらなかった。そこ

れでも、それ程過激な反応を示さないのは、日本の利

用と、中国を本当の敵にし

たくない、という理由があ

るからでしょう。また、日

ソ連のために中国を犠牲

にすることもない事だと思います。それは、日本より

中国をより重視しているか

らです。これから日本へ

の要求は、「等距離外交」

を唱える以上、「日中」を

六名出席。中22回の矢沢千

結んだのなら、「日ソ善隣

友好条約」を結んでくれ、

といふことになるのではな

いでしょうか。確心も持て

ませんが、これが当面の日

本への関心だと思います。

樹てた。

当日本部から長坂副会長

が出席して下された。四十

回、随筆・画・書等を集め

て綴り回覧。

魁龍團といえば、武者ぞ

ろいの蛮カラで有名だった。

雨の日は袴笠を用いて傘は

さうない。弁当は鍋を提げ、

朴歎の高下駄で闊歩してい

た。柔道の弱者はいつも魁

龍團だった。と、明治大正

時代の大先輩の思い出話で

ある。

魁龍團といえど、武者ぞ

ろいの蛮カラで有名だった。

雨の日は袴笠を用いて傘は

さうない。弁当は鍋を提げ、

朴歎の高下駄で闊歩してい

た。柔道の弱者はいつも魁

龍團だった。と、明治大正

時代の大先輩の思い出話で

ある。

魁龍團の歴史について、

魁龍團の歴史の資料を集

めます。

伊賀良地区の飯田高校同

窓会を持った。暫くやら

ない。

裏山、枝葉を以つて小屋を

作り、鍋釜を以つて肉飯を

焚き、徹宵大いに騒ぐ。

一、登山 夏休みに行うこと

もある。

毎月第一土曜日午後、場

所・小学校、夕刻まで運

動、夜菓子を食い水を呑

み放談高唱夜半に及ぶ。

時に試験会或は柔道の試

▲ ▲ △ △ ▲
 「ソ連のアジアへの進出」について時間のあるだけ話したいと思います。ソ連のアジアへの進出基本はあります。

今日、ソ連軍のインド洋への大がかりな進出等がよ

ります。

かに決定的様相を呈しては

いません。

國の役にたつ科学力や経済

力をうまく利用する「協力

的共存」の対象とみなして

います。唯、中ソ対立は確

定されています。

訴えて私のお話を終えさせ

ていただきます。

魁龍の里

一、例会

毎月第一土曜日午後、場

所・小学校、夕刻まで運

動、夜菓子を食い水を呑

み放談高唱夜半に及ぶ。

時に試験会或は柔道の試

合等を行う。

魁龍の里

伊賀良地区の飯田高校同

窓会を持った。暫くやら

ない。

裏山、枝葉を以つて小屋を

作り、鍋釜を以つて肉飯を

焚き、徹宵大いに騒ぐ。

一、野営 春秋二回、鳩打の

森で、八月十二日、北方の小

鉢を会場とする。卒業後旧

生が、毎年夏休みに行うこと

もある。

毎月第一土曜日午後、場

所・小学校、夕刻まで運

動、夜菓子を食い水を呑

み放談高唱夜半に及ぶ。

時に試験会或は柔道の試

合等を行う。

魁龍の里

伊賀良地区の飯田高校同

窓会を持った。暫くやら

ない。

裏山、枝葉を以つて小屋を

作り、鍋釜を以つて肉飯を

焚き、徹宵大いに騒ぐ。

一、野営 春秋二回、鳩打の

森で、八月十二日、北方の小

鉢を会場とする。卒業後旧

生が、毎年夏休みに行うこと

もある。

毎月第一土曜日午後、場

所・小学校、夕刻まで運

動、夜菓子を食い水を呑

み放談高唱夜半に及ぶ。

時に試験会或は柔道の試

合等を行う。

魁龍の里

伊賀良地区の飯田高校同

窓会を持った。暫くやら

ない。

裏山、枝葉を以つて小屋を

作り、鍋釜を以つて肉飯を

焚き、徹宵大いに騒ぐ。

一、野営 春秋二回、鳩打の

森で、八月十二日、北方の小

鉢を会場とする。卒業後旧

生が、毎年夏休みに行うこと

もある。

毎月第一土曜日午後、場

所・小学校、夕刻まで運

動、夜菓子を食い水を呑

み放談高唱夜半に及ぶ。

時に試験会或は柔道の試

合等を行う。

魁龍の里

伊賀良地区の飯田高校同

窓会を持った。暫くやら

ない。

裏山、枝葉を以つて小屋を

作り、鍋釜を以つて肉飯を

焚き、徹宵大いに騒ぐ。

一、野営 春秋二回、鳩打の

森で、八月十二日、北方の小

鉢を会場とする。卒業後旧

生が、毎年夏休みに行うこと

もある。

毎月第一土曜日午後、場

所・小学校、夕刻まで運

動、夜菓子を食い水を呑

み放談高唱夜半に及ぶ。

時に試験会或は柔道の試

合等を行う。

中二十五回卒

クラス会

仲田丈夫

幹事は伊藤・原・岩田の三人。今年の会は中京地区で、

君。

五月二十日(土)名古屋市中区丸の内、「東急イン」ホテルに集合。大部分が己に古稀を超えたこのクラス会は、健康上の理由もあって回を重ねる毎に参加者が減つて来る。今回も出席予定を取消す者が三名、

参加者二十名の会となつてしまつた。名古屋在住の中島君(二十七回卒)が特別参加された事は喜ばしいことであつた。

四日目で、結び前に北の湖対若三杉の優勝と横綱をかけた大一番があるので、各

自の室で観戦してから六時に会場へ集れ、という幹事の計いてあつた。

会場の大広間は二階にあり、各自に当てられた室は七階の二人部屋、悉皆が西洋式なので不慣れの者は大いに面喰う。一枚の浴衣と帯だけが日本式のもので、これも寝室以外には使用出来ない。僅かに靴をスリップに履き代えただけで鍵を携え広間に集るという仕末。中央の卓上には山と盛られた豪勢な珍味が処狭しと並べられ、食べ放題の飲み放題という趣向のパーティ

本紙を通じて報告させて頂きます。

×
×

校門の花壇と
中四十四期生の心

林利美

翌二十一日(日)の朝食

を食べ放題に供給してくれます。若者とは異つて爺達の集りでは、この豊富な御馳走は半分も平げる勢いがな

い。夕食用にサンドウイッチ、握り寿司、日本そばなどを自由にとなつていてしまつたらしい。

校歌と信濃の国を合唱して、この宴会は盛会裡に終了。

翌二十一日(日)の朝食で気がついたことは、泊り客の殆んどが外国人らしいということだ。それも東洋人ばかりで、一見してはわ

い思いの行動を楽しむ中で、駐車場が観光バスで埋まる程の盛況である。見学時間は正午までの正味二時間。急いで全部を見て回る程の元気はない。夫々思

ので、駆車場が観光バスで埋まる程の盛況である。見

が、ガラ空きの車内は大へん楽しいムードであった。

時間半程で明治村に着いた

校史編纂委員會

編纂委員長 北原明治

経過順調、七月の定例企画委員会にも出席の予定であったのに、病勢俄に改り急逝された。

「創業班」（大沢和夫）
独立前を調べている。従
来の沿革史には、「下伊那
郡立飯田中学校」となつて
いるが、県庁所蔵の文書
よつて「下伊那中学校」の
誤りである事がわかつた。
「永昌院を借りて開校した
のが明治15・6・27」と下

校史を作るに当つて、第四班「教育内容」を我等五人が分担した。その中で、「卒業生」が小生の分担。会員名簿を見れば世話のないことと安易にとりかかつた。ところが大へんであるわら紙一枚上欄へ進学校

「学園生活班」（前島栄二
）校友会誌の今昔）
校友会誌の変遷を書くた
めに、明治三十五年三月發
行の物から並べてみたが、
時々欠番があつて難渋した
しかし、大変楽しい仕事で
あつた。最初のものが「校
友会雑誌」という名であつ

〔エピソード班〕（池田憲寿）
特徴的な先生の面影など
は容易に浮かんでも、さて
エピソードとなると、起因
から結末までの脈絡を考え
る複雑さからか、おいそれ
とは書けないようですが、
明38「日露戦争の中で」、
同43「県下野球大会の帰途

れば歓迎。また高校生活批判も歓迎。
飯田高校史がどのように
いきいきと浮彫りされるか
興味を持つておられる事と
思うが、皆様の原稿でのご
協力がそれを決定するもの
と思われる。

十月から五ヶ月間に、大

両度の寄宿舎火事等を始め
数々の原稿が寄せられた。
年を追つて進展して來た母
校の様子が浮き出されてい
る。「学制班」から逸早く
出た原稿が明5の学制、明
12教育令を始め幾つかの山
を作つて變つて來た次第を
示し、これが本校史全体の
柱となつてゐる。

◎時代区分（章節）他
検討を重ね、15号所載の
通り決定。A5版二段組み
千頁。写真百枚を含み、内
容に史的確かさと親しみ易
さ両面を加味して。
執筆担当もきまり、計画
に従つて活動開始。

「教育内容班」（笛岡秀郎）

続き、19・8一県一中学校の制により廃校。七年経て26・4より「長野県尋常中学校飯田分校」（本校松本として復活。それが33年になら立」した。

この頃の資料は下伊那郡制史、深志高校九十年史等にも載っている。会員のお宅にある資料等貸与して頂きたい。

学校などは、なおわからぬ。特別の先生に聞いたり、局や駅へ聞いたりこれまた大へん。

改めて模造紙三米半ほど貼り足した一覧表ができ、幾種かの統計表ができた頃には、わが「会員名簿」は四七回生のところまで表紙と共にバラバラになってしまつた。他班の人達も人知れぬ苦労をしていることであらう。

である。
明37・三号、明40・44の
もの、昭4三十六号、昭11の
昭20・昭21のもの。
さらに生徒手帖お持ちの方も
おしらせ願いたい。
ただ今、昭2、3、4、
中28回生の物のみ現物があ

でもらいたい」という事が
あると思う。現在一部の古
に原稿を依頼してあるが、
一般の方からの投稿を切
します。投稿された原稿は
全文を載せられないかも知
れないが、總て資料室に保
管します。

てご歎談になつたといふ
い先輩の話など逸話も多い
教育界もまた、多士済々
である。全体として、まだ
多勢残しているような気が
する。古い人では、どこの
だれに聞いたらよいか手掛
りがつかめず、推薦される
方も、基準がはつきりしな
くて、同級生など見過ごさ
れている向きもある。取
扱はとにかくご示唆を待つ
ている。「学校組織班」か
ら施設の変遷、高松原への

校史編纂副委員長平田英夫先生が、去る七月十一日にわかれに逝かれた。

五十一年同窓会総会で資料委員会発足がきまるや、先生はその蒐集主任に選ばれ、綿密な企画と組織的な運営で推進され、次々に集まる多くの資料の整理にも銷意当られた。さらに五十五年完成をめどに編纂委員会が構成されると、その副委員長を兼ねたかま両輪を操る如くに先頭になつて軌道にのせて公ムカツ

宮下正人編纂主任も、一身上の都合で七月退任、委員として協力頑くことになつた。

急撲、奥村頼人（33回）
竹村毅（31回）両氏に両主任の後を継承して頂いていた。

九月六日編纂各委員長会で、その後の各委員会の進捗状況確認とこれから推進について検討、大綱が定まる。

◎編纂日程

53・9末 第一次原稿
(各委員会) 完了、提出。その検討→編纂原案→編纂總委員会

54・6末 第二次原稿熱筆完了。文体、表現、資料、写真等吟味。

54・10末 第三次原稿作成完了→印刷廻し→校正

伊那郡制史にあるが、疑がわしい。というのは同校の當期は、9・1・2・15が並んで、2・16と7・31が後期と規定されている。また下伊那中学校開設の段取りには、後の校長島地五六先生が当った事は、県庁に出した履歴書に徴して確實だが、下伊那中学校初代主事に任せられた事には、何の史料もないのに信じ難い。校長は16年7月には郡長渡辺猶人が任せられていたことは確かである。このように、今までの編纂物の誤りもわかつた。この時代の事は、「下伊那郡町村聯合会日誌」などによると確実となる。明治16・5の物は矢沢昇さんより借用している。15年17年ののがほしい。

名、左欄へ卒業年次をとり
縦横に線を引き、正の字を入れて表を作り始めた。第一回生は八校種、十一人で何のことはない。ところが忽ち校種は増し、卒業生も増していく。次々と紙を貼り足して、横は三米になり下へも貼り足し、わら紙土四枚と相なつた。四七回生までの進学者一、六六三名校種は三四六校となるのだから無理もない。その校名を探し出し、年次を誤らぬよう記入するのが大へん。縦横の合計を出すのがこれまた大へんな仕事。

その次は、部門別に表を作り直す。人数の多い順に並べるため、それを探し出すのに苦労。ようやくてきてみると学校名の変更や、統合昇格もある。

て、大正八年頃より「校友会誌」となった。昭和十六年から十八年まで「稲穂学報」であり、再び校友会誌となり、昭和三十一年から「高松」という名に変つて現在に至つてゐる。菊判倍版という大きな形（電話帳より縦横とも一・二理士きい）のものが出たのが昭和五年から八年に至る頃である。名前といい、形といい、また年に数回発行といふ、それまでと變つたについては、何れも理由のあることである。時局の影響が主だった理由であろうか。これは詳細に記しておいた会員の皆様にお願いしたいのは、欠番の補充について

同45「弁論大会で校長攻撃
大正前期「野球黄金時代」
「無銭旅行」「教師の演説活動」、中期「長姫時代」
後期「運動会と陸上競技」「文芸活動」「思想の影響」「水泳クラブの発端」昭和初期「野球応援と授業放棄」「世界恐慌の中での芸能コンクール『先生を』」「停学処分」「寄宿舎の火事」昭14「信濃宮建立」昭16「開けわだつみの声」同18「犠牲者の像」等々、約半数の年数から提出という現況です。なお、「女学生への关心」「食糧難生活」なども予定されています。個別執筆でもよろしいので、お心当たりのエピソードをぜひお寄せください。

筋をまとめあげるつもり。その間、早めに協力をお願ひします。今まで、既に協力下さった方々へ感謝申あげます。送り先は同窓会館内高校期編纂係宛。

かつて大正末年飯田中学に学んだ老先生の話によると、その頃旧長姫校舎の講堂正面の壁にこの額が掲げられていて、式典などで講堂に出入りする時は、いつも生徒の目に触れたという。

中学初代校長がいかに人格高邁であろうとも、中央から遙かな地方の一中学校長であつてみればそうやすやすと藤島武二が繪筆を揮うことはあるまいと思われるのだ。いったいいかなる経過があつてこの繪ができるのであろうか。そのところが大変面白く思われて筆を執つた。

つたから職員・生徒から組のよう慕われていた。

くの郷党らに慕われつづけ、去つた島地校長を惜しんで、関係者が当時名声高かつた藤島に依頼して、永ノ先生の頌徳の記念を学校に残そうとしてこの絵が出来た、というのが真相である。当時としても極めて高価な買ひ物であつたに違はない。藤島も懇請に感じて引き受け描きあげたものであつた。

「本まで判らずなりに無暗濫読多読」する少年であった。すでに後年詩人学匠として大をなす兆が感じられるのである。山岳重疊たる信州にあつて山の彼方の京都にあこがれ、学問に志のあるが、親の許しがられず、結局時の島地校を訪問して東都遊学の両親説得方を玄賴してい

ないが、往時中学一年生樋口国登の何たるかをすに洞察、判断し、自らの長たる飯田中学を去らし東京に遊学させることを親と膝つき合わせて説くごときは、並みの教師の易にできることではあるい。その見識と情熱に一するのである。

馬ま谷が岡の役

室の壁に一枚の大きな人物
画像が掛かっている。縦八
十厘、横六十五厘格の立派
な金縁のついた額で、額の
下に「初代校長島地五六先
生」と記した木札がはりつ
けてある。この油絵は藤島
武二の筆による島地飯田中
学初代校長の肖像なのであ
る。絵の中の大柄な人物は
豊かな口髭をたくわえ、フ
ロックコートを着用し、純
白の襟もとには地味なネク
タイを結んでいる。額が広
く顔も大きく、やさしく威
厳のある眼光は凡俗でない
その人柄をよく描きえてい
る。バックは落ちついた紫
で、全体に黒を基調とした
堂々たる風格をもつ作品と
いえる。

わが国洋画界の比較的早い時期を飾る大家であり、毛折した天才画家青木繁と並び称される。藤島は、大正期日本の洋画界で指導的地位を果たした。明治末年には渡欧して本場の油絵をみつかり学んできた。「天平の面影」「蝶」「黒扇」「東海の旭光」など絵画史に残る傑作も多い。その豊かな浪漫的裝飾性は時の詩人たちをも感嘆させた。藤原有明は藤島の絵「天平の面影」に触発されて詩をつくっているし、上田敏の歌詩集「海潮音」の装丁は藤島武二がしている。

島地五六校長は飯田藩士
島地鎌次郎の次男として安
政六年飯田に生まれ、現慶
出張中に病で倒れ、明治
四十五年飯田で没した。生
時より聰明で心身を鍛練し
甲府、東京に遊学し、碩学
安井息軒の塾に学んだこと
もある。

A black and white portrait of Tanaka Teijiro, the school principal. He is a middle-aged man with a mustache, wearing a dark suit, a white shirt, and a patterned tie. The portrait is set within a double-lined rectangular frame.

に掲げられたのは大正四年頃であったかと思われる。

さえ祖父母、父母、叔父
みな揃って幸福すぎる。
く上京して苦しむ方が癪
の子を谷へのたとえでか
つてよろしかろう」と自
日夏家を訪れて、諄々と
いて日夏の父藤次郎母い
を納得させた。そして明
三十七年四月には、日夏
生は上京し、私立京北中
二年に転入学出来た。京
中学では転学早々から校
会雑誌などに萍翠・風峠
号を用いて評論、詩、フ
ゲネーフの散文詩の翻訳
ど毎号発表していく。こ
では同年に阿部次郎、飯
蛇笏がいた。

母半十えらし説治先字北友のルなこ田飯前

その質量の大きさに驚く集「転身の頃」「黒衣聖母をはじめ、大著「明治士詩史」「明治浪漫文学史ほか、先生の全著作の集成である。

○

飯田高校図書館閲覧室壁上に、黄眠日夏先生の「静修」の二字をした扁額が前記島地五丈長の肖像と並べて掛ける。両先生の縁また深かずやである。

○

以上の小稿の一部は、前飯田高校図書館報に載たものであるが、ここに筆して再録し、お目を活ことにした。

島地校長の肖像画のことなど



• 100

島地校長は、当時県下では松本中学の小林校長と並ぶ名校長といわれていた。

出書房出版の日夏耿之介による
集は、本年（昭和五十三年）
八月完結した。全七巻、二
を見張る華麗本で、いわ



▲日夏先生の“隠條”



